

あなたも大障教へ さまざまなお誘いに誘い合ってご参加を



大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
(TEL) 6765-8904
(FAX) 6765-8905

大障教は大阪の障害児教育をより発展させていくため
みなさんの加入を心よりお待ちしております！

新年度がスタートして約3週間がたちました。新規採用者のみなさんにとっては毎日が緊張の連続で、そろそろ疲れも出るころではないでしょうか。ベテラン・中堅の先生方も、新たに担任した子どもたちのための教材準備や年度初めに集中するさまざまな仕事に追われ、忙しくお過ごしのことと思います。

大障教(大阪府立障害児学校教職員組合)は、府立支援学校における教育条件整備と教職員の労働条件の改善、障害者福祉の充実などを大きな柱として、2019年度も運動をすすめていきます。

新年度にあたり、大障教のとりくみへの引き続いてのご協力をお願いいたします。また、この機会にひとりでも多くの教職員のみなさんが組合員として、私たちの運動に参加していただくことを、心から呼びかけます。

新転任歓迎行事にぜひご参加ください

5月24日(金)には、大阪府教育会館(たかつガーデン)を会場に、新転任歓迎発達学習会「障害児教育って楽しい!」を開催いたします!「わかりたい!子どもの気持ち」をおこないます。講師には、長年障害児学校で教員をされた三木裕和さん(鳥取大学教授)をお招きしています。ご自身の実践を通して、子どもたちの見方や障

害児教育の魅力、その楽しさを伝えていただきます。職場で幅広く声をかけて、誘い合っただけでのご参加、お待ちしております。ほかに、青年部主催の「バレーボール大会」を計画しています。今年4月20日(土)に堺聴覚支援学校、4月27日(土)に交野支援学校

教員採用選考学習会「めざとも」

大阪教職員組合が後援する「めざとも」仲間とともに、なにかの教員採用選考学習会(略称「めざとも」)が今年も5月18日(土)、6月8日(土)、6月15日(土)に大阪府教育会館(たかつガーデン)を会場におこなわれます。この「めざとも」は、「ともに励まし合いながら合格をめざそう」と2006年から始まったとりくみです。採用選考を受けるメンバーや正規採用された「めざとも」卒業生などで実行委員会をつくり、いろいろな思いやアイデアを出し合っ、学習会の準備をすすめています。各職場の分会宛てに「申し込みはがき」のついた案内をお送りします。お近くの組合役員の方まで気軽にお知らせください。

お得な全教共済(大教済)にもご加入を

教職員組合は、職場の仲間がさまざまな願いを持ち寄ってつながり合い、みんなで語り合い学び合う活動をする組織です。教育条件が少しでもよくなるように、教育予算の増額や障害児学校の建設などを求める活動に、父母や府民のみなさんと力を合わせてとりくんできました。

また、こうした活動と合わせて、教職員がお金を出し合い、仲間同士で助け合う「共済」の仕組みを主体的につくり、その運用もこなっています。大障教が扱う「全教共済(大教済)」は、組合員でない方も気軽に加入できます。特に、月々600円の掛金で、結婚・出産など給付が受けられ、退職時には掛金が全額戻ってくる「総合共済」は、新規採用者のみなさんにもおすすめです。まずは、新転任行事や職場のとりくみなどに参加して、組合のことを知ってください。その上で多くの教職員のみなさんに大障教に加入していただけることを願っております。

昨年度の「つながりあそび」の様子



大障教ホームページアドレス <http://fc06331220171211.web2.blks.jp/> Eメール アドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp



「春の渡り」と言えば鳥。「留鳥」は年中観察でき、スズメやカラスがそれ。「漂鳥」は、季節によって国内を移動する鳥で、メジロなどがある。「夏鳥」は春から夏に日本で繁殖し、秋にかけて南国に渡る鳥で、ツバメが有名。「冬鳥」は北で繁殖し、秋に日本にやってきて冬を過ごす鳥で、ツグミやアトリ、ジョウビタキなど。三月の大阪城公園では、アトリやジョウビタキ、キクイタダキに出会えた。お堀でカメラを構える人に話しかけると、チョウゲンボウ(猛禽類)を待っているとのこと。昨年の台風で公園の樹木が倒れ、野鳥が少ないと話しておられた。四月に入り「夏鳥」が大阪城公園にも姿を見せるようになった。オオルリ(日本三鳴鳥)、そしてキビタキも渡ってきた。繁殖を控えたオスは自己主張をするかのようにさえずる。鳥には「さえずり」と「地鳴き」があり、さえずりは縄張りをつがい形成に役立つというらしい。渡り鳥は自由だ。自らの生息や繁殖に必要な環境を求めて移動する。人間、特に子どもの場合、そうは行かない。虐待や貧困の問題、家庭の経済状況で進学をあきらめる子どももいる。貧困の連鎖を断ち切る力は教育に存在する。しかし、国連から「日本の教育は過度に競争的」と批判され、教育行政は「自己責任を貫徹する道具」としての機能を教育に求めている。人間は、自由に空を飛び移動はできない。しかし、外界に働きかけ、その変革をなし得る存在だ。国民が主人公の政治と教育への変革を求めるとともに、夏の参議院選挙では子どもたちの未来を見据えて大切な一票を投じたい。(久)

寄宿舎を設置する3校に、安全安心な学校給食・舎食を求めて

緊急要請署名提出

4月9日、旧大阪府議会会館で「寄宿舎設置校の安全安心な学校給食・舎食を求める緊急要請書」の手交を行いました。大障教からは、寄宿舎教員部・執行部から8人が出席しました。

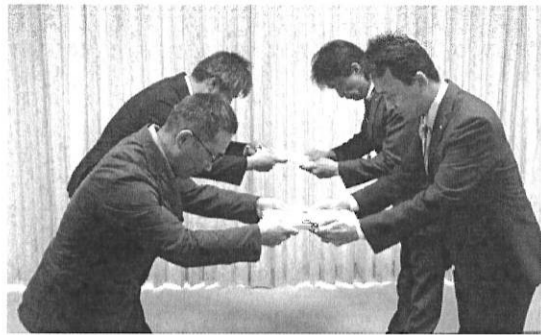
冒頭、寄宿舎教員部の白木部長は「今回の施策では、栄養士の業務負担が増える。1人の栄養士が3校の舎食を担当する業務については見通しが持てない。子どもの「食」の安全安心を考えていただきたい」と述べました。

今回の施策は、現場の実態を無視して私たちのねがいに背を向けるものです。このことを受けて、大障教は3月末から急遽、寄宿舎設置3校の教職員署名と大障教の分会を対象にした団体署名にとりくみました。個人署名は167筆、団体署名は大障教全42分会から寄せられました。

今回の施策の内容及び内容

2月25日、寄宿舎に関わる栄養士の配置について寄宿舎を置く府立3校の学校長より説明がありました。その内容は、
①平成31年度より、寄宿舎設置3校の平準化をはかるため、3校の寄宿舎・舎食を担当する

栄養士を1名配置する。大阪南視覚支援学校に臨時技師(栄養士)を配置し、その者が原則3日間を大阪南視覚支援学校で勤務し、北視覚支援学校と中央聴覚支援学校に週に1日ずつ出張する。
②3校の寄宿舎の献立(夕食・朝食)を共通メニューとして業務軽減をはかる。それに伴い、栄養等のバランス面から学校給食の献立も大阪南視覚支援学校の献立をベースに3校の献立を共通化する。



署名手交する白木部長と西面副委員長

これまで大阪府は寄宿舎を置く大阪南視覚支援学校

には、栄養教諭1名と臨時技師(栄養士)を配置してきました。また、昨年度から同じく寄宿舎を置く中央聴覚支援学校には自校献立の開始に伴い臨時技師に加えて非常勤補助員(栄養士週27時間)を配置しました。大障教は、2019年度から自校献立に移行する大阪北視覚支援学校にも複数の栄養士を配置するように求めてきました。しかし、今回の大阪府の施策は、南視覚支援学校に臨時技師(栄養士)1人を配置し、3校の寄宿舎での業務を行わせることは明らかに過重労働を強いるものです。

安全安心な学校給食・舎食を求めるねがいを府教委に届ける

参加した寄宿舎教員から、「栄養士不在の時、寄宿舎の調理場の責任は誰が持つのか?」「新たな年度、新たな環境でスタートするには大きな不安がある」「食材の仕入れ等含め、今までの動きと違うところがあるため不安が大きい」「舎食は生活教育のまさに教材。責任のつれない状況は極めてよくない。子どもたちや親にどのように説明するのか?」「子どもの顔を見たり関わったり、目の前にいるからこそわかることがある。栄養士がいることが当たり前だと思いが、いないことでマイナスが生じるのは明白」などの訴えが続きました。

山内書記長は、「この間、給食を提供している学校の栄養教諭の複数配置を求めてきた。寄宿舎設置校はなおのことだ。過重な負担を強いて、ひとつミスがあれば子どもたちの食の安全・命に直結する問題である。子どもたちの食の安全と食育なども充実できるように、今回の施策を見直し、直ちに寄宿舎設置3校には栄養教諭を複数配置してほしい。また、3校の学校給食及び舎食献立の『共通化』は撤回すべきだ」と支援教育課と保健体育課に訴えました。要請書手交後、「見通しが持てない状況が本当に不安。今後生じる問題点や栄養士の業務負担など、現場からの声を集めて実態を訴えていくことが必要」と決意を固めました。

全国障害児学級・学校交流集会に参加して(感想その7)

三日間、参加して多くの学びと、元気をもらいました。特に今回、改訂学習指導要領について関心があり、講座・フォーラムに参加しました。話を聞けば聞くほど問題点がたくさんあり、これは一体誰のためのものなのか、と腹だたい気持ちになりました。私たちは目の前の子どもたちから出発し、願いや発達の課題を考えながら実践しています。分科会で全国の実践を聞き、子どもの姿からとりくみを考え、子どもたちが変わっていく、今まで見せなかった姿を見せる、先生たちの思いにふれました。まさに、これが長年積み上げてきた障害児教育だと実感しました。改訂学習指導要領に関して、文科省での議論の不十分さや考え方の矛盾点、どうしてこれほど細く規定されるのか、これをそのまま本当にしないといけないのかななどを、しっかり考えないといけないと思いました。学習指導要領の何が問題なのか知ること、そしてどのような実践を大事にしていくのかを、一人でなく集団で考えることが改めて大切だと思いました。

全国の学習会に参加し、各地の実践や困難さや奮闘を聞くと、学びだけでなく広い視点で考え、そしてパワーももらえた三日間でした。仙台まで行って良かったです。(東大阪支援学校分会 荒谷美里)